

パラオ国際サンゴ礁センターとの意見交換会
開催報告

(1) 目的

平成 29 年 7 月にパラオ国際サンゴ礁センター（PICRC）と環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター（COREMOC）で協力覚書を締結した。本事業では PICRC スタッフ 2 名を石垣島に招聘し、専門家や環境省職員との交流を行い、今後のサンゴ礁保全に関する連携について意見交換を行った。

(2) 意見交換会の概要

日時	2024 年 3 月 19 日（火）14:00-16:00
場所	国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター 会議室
形式	ハイブリッド形式（現地および WebEx によるオンライン）
参加者 （15 名）	<p>パラオ国際サンゴ礁センター（PICRC）</p> <p>Caryn Liong Koshiba CEO</p> <p>Adeeshia Imade Tellei, Director of outreach department</p> <p>専門家</p> <p>土屋 誠 石西礁湖自然再生協議会 会長</p> <p>吉田 稔 石西礁湖自然再生協議会 副会長</p> <p>中村 崇 石西礁湖自然再生協議会 学術調査部会 部会長（オンライン）</p> <p>鈴木 豪 石西礁湖自然再生協議会 学術調査部会 副部会長</p> <p>自治体職員</p> <p>上野 哲男 石垣市市民保健部環境課 課長</p> <p>上地 永一 石垣市市民保健部環境課 課長補佐兼係長</p> <p>環境省九州地方環境事務所 沖縄奄美自然環境事務所</p> <p>北橋 義明 所長、柳谷 牧子 国立公園課長、綾部 芳秀 自然保護官</p> <p>環境省九州地方環境事務所 沖縄奄美自然環境事務所 石垣自然保護官事務所</p> <p>山本 以智人 上席自然保護官、近藤 千尋 自然保護官</p> <p>江川 博子 自然保護官補佐、関森 梓 自然保護官補佐</p>

(3) 意見交換の概要

（報告の要点）

1. パラオと沖縄の研究交流の歴史（土屋会長）

パラオと沖縄の歴史的つながり、パラオ熱帯生物研究所の設立や研究、文化交流の歴史について説明された。双方の連携が未来に向けて重要であることが示された。

2. パラオ国際サンゴ礁センターの事業紹介（Koshiba CEO）

パラオ国際サンゴ礁センターの様々な取組が動画で紹介された。質疑応答では、EEZ の 80% が禁漁区となったこと等の資源管理についての補足説明があった。また、伝統的な漁業の継承、環境 DNA 技術を用いた調査などについて質疑が交わされた。

3. 石西礁湖自然再生行動計画について（山本上席自然保護官）

環境省が実施しているサンゴ群集修復事業が紹介された。また、石西礁湖自然再生協議会の新たな行動計画として、陸からの影響低減、観光ガイドライン策定、環境教育が重点項目となっていることなどが紹介された。

（意見交換の要点）

- ・石垣島側は、石西礁湖自然再生協議会行動計画の重点項目である陸域負荷対策、持続可能な観光ガイドライン、環境教育について協力関係を深めたいと希望している。また、石垣市は特に環境教育においてパラオとの連携が可能だと考えている。
- ・PICRC では、高水温に強いサンゴに関する研究、貝とウニの増養殖の優先順位が高い。
- ・ウニの増養殖に関し、パラオと MOU を締結している沖縄県（水産課）が知見を有していることから、パラオ側の要望を沖縄県に伝え、パラオと沖縄県の協力関係を発展させる端緒とする。
- ・鈴木氏らが実施したパラオにおけるサンゴ有性生殖種苗の生産と育成プロジェクトについて、今後のプロジェクト進展の予算獲得を双方で検討することとなった。また、パラオ側のモニタリング結果を石西礁湖自然再生協議会で報告し、八重山の取組と合わせて解析することが可能である。
- ・COREMOC と PICRC は、次世代の教育、普及啓発を重点分野として協力する方向性となった。



土屋会長による発表



石西礁湖自然再生行動計画に関する説明



意見交換の様子



集合写真